

**第8回 設楽ダム連続公開講座
(とよがわ流域県民セミナー)**

豊川の治水計画と治水対策について

平成25年11月30日
国土交通省 中部地方整備局

1. 豊川流域の概要(流域、想定氾濫区域)

■ 豊川は、愛知県東三河地方を流れる、幹川流路延長約77km、流域面積724km²の一級河川です。

■ 豊川は、その流域に東三河地域の中心となる豊橋市をはじめとする3市1町の約59万人の人々が生活しており、流域の歴史や自然、文化と大きく関わり、一帯の産業・経済の基盤を築いてきました。



位置図
豊川の流域概要



豊川流域図

流域面積	724km ²
幹川流路延長	約77km
流域市町村	3市1町
流域市町人口※1, 2	約59万人
想定氾濫区域内人口※3	約4.5万人
利水地域市町人口※1, 4	約78万人

※1 出典：平成22年度国勢調査
※2 流域市町：豊橋市、豊川市(旧御津町・旧音羽町除く)、新城市、設楽町
※3 出典：平成14年2月公表 浸水想定区域図
※4 利水地域市町：豊橋市、豊川市、浜都市、新城市(旧鳳来町・旧作手村除く)、田原市、浜西市

1. 豊川流域の概要

- ・流域、想定氾濫区域
- ・降雨状況
- ・気象状況

2. 昭和時代までの治水対策

- ・霞堤
- ・近年の改修経緯
- ・浸水被害
- ・豊川放水路
- ・下流部狭窄部対策
- ・事業効果の一例

3. 治水計画の概要

- ・河川法の改正
- ・河川整備基本方針、河川整備計画とは
- ・河川整備基本方針の概要
- ・基本高水・計画高水の考え方
- ・河川整備計画の概要
- ・河川整備メニューの考え方
- ・河川整備計画における事業内容
- ・河川整備計画における事業事例
(霞堤対策、河道改修、環境整備、耐震対策、設楽ダムの建設)
- ・河川整備計画の事業実施効果

4. 維持管理

- ・河川巡視・点検
- ・水門操作
- ・地震時の対応
- ・連携・協働管理
- ・河川利用の安全管理

5. 洪水等の観測

6. ソフト対策

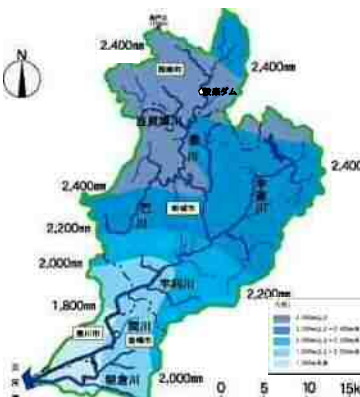
- ・情報提供
- ・水位情報
- ・浸水想定区域図・ハザードマップ

7. 危機管理

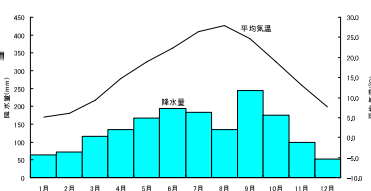
- ・洪水予報
- ・平時の訓練
- ・災害支援

1. 豊川流域の概要(降雨状況)

■ 豊川流域内の年間降水量は上流域で約2,400mm、下流域で約1,800mmであり全国レベルで比較すると多雨地域に属しており、雨は梅雨期と台風期に集中しています。



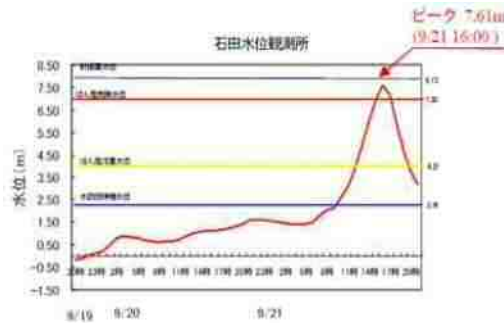
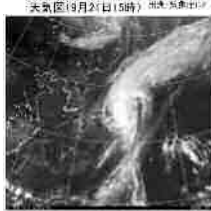
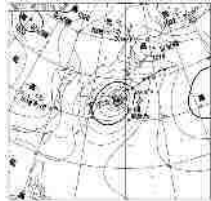
年平均降水量分布図(S36～H22の平均)



降水量と気温の季節変化
(国土交通省豊橋観測所 H元～H22の平均)

1. 豊川流域の概要(気象状況)

■平成23年9月には、台風第15号に起因する降雨により、基準地点の石田観測所で氾濫危険水位（7.30m）を約1時間にわたって超過し、ピーク水位は7.61mを記録しました。



4

2. 昭和時代までの治水対策(近年の改修経緯)

■これまでに発生した大きな災害を契機として治水計画が適宜見直され、河川改修を段階的に進めてきています。

主な洪水と治水計画

(黒字：出水状況（石田実測最大流量(毎正時)、被害等は支川被害・内水被害等含む)、赤字：治水計画、青字：主な治水対策)

- 昭和 2年 豊川改修計画策定（内務省）計画高水流量：3,800m³/s
- 昭和13年 豊川放水路着手（昭和40年7月 完成）
- 昭和43年 8月 台風10号
(死者6人、負傷者10人、全壊流失28棟、半壊21棟、浸水1,849棟) 約3,400m³/s
- 昭和44年 8月 台風 7号(全壊流失7棟、半壊・浸水1,757棟) 約4,600m³/s
- 昭和46年 3月 工事実施基本計画(基本高水のピーク流量：7,100m³/s、計画高水流量：4,100m³/s)
- 昭和46年 下流部狭窄部対策（昭和62年 完成）
- 昭和54年10月 台風20号(全壊流失4棟、半壊4棟、浸水190棟) 約4,400m³/s
- 平成11年12月 豊川水系河川整備基本方針策定
(基本高水のピーク流量：7,100m³/s、計画高水流量：4,100m³/s)
- 平成13年11月 豊川水系河川整備計画の策定(目標流量：4,650m³/s)
- 平成18年 4月 豊川水系河川整備計画の一部変更
- 平成20年10月 設楽ダム基本計画告示
- 平成23年 9月 台風15号(浸水31棟) 約3,900m³/s

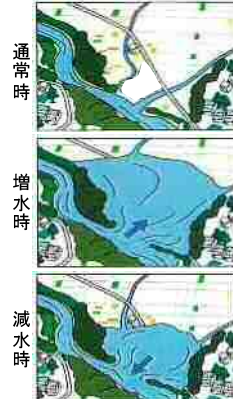
6

2. 昭和時代までの治水対策(霞堤)

- 豊川では、江戸時代に吉田城下町における浸水被害を防ぐために「霞堤」が設けられました。
- 霞堤とは、堤防に不連続な区間を設け、洪水時には洪水の一部を貯留させ下流部の破堤など甚大な被害を未然に防ぐために設けるものです。



豊川における霞堤

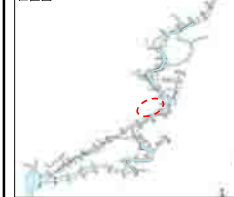


5

2. 昭和時代までの治水対策(浸水被害)

■昭和10年8月、昭和12年7月に洪水が相次ぎ出水被害が発生しました。

位置図



昭和12年7月洪水
(豊川市、土筒、当古、院之子町)



昭和10年8月洪水(豊川市当古町)



昭和12年7月洪水(豊川市土筒町)

7